

〔和漢三才圖會七十六〕妹背山 在吉野山之續麓有川吉野川末流於山交ア、セ落セ紀川 又有弱浦妹背山

〔袖中抄十四〕いもせの山

ながれてはいもせの山の中におつるよし野のかはのよしや世の中

顯昭云、いもせの山とは紀伊國にあり、吉野川をへだて、いもせの山とて、ふたつの山ある也、昔いもと、せうと、河をへだて、中のさかひを論じけり、遂に妹かちて、せの山の方ちかく掘て、吉野川をばながしたりといへり、彼いもとせうと、この二の山の中に小山あり、それをいもせ山と云とぞ、彼國の土民申けり、おぼつかなし。

〔和州巡覽記〕上市 吉野河の北岸に在町也、飯貝のむかひにあり、船にて渡る、上市よりも大和の國なかにこゆる道ありて、山谷へ入、是は芋が嶺に行道也、右に行ば龍門の谷の内に入、此地の河邊の兩旁に、河を濟て妹背山とて、兩山有、飯貝の方にあるを脊山と云、西也、古城の形見ゆる、龍門の方にあるを妹山と云、東也、是は茂山なり、妹山脊山二ともに高からず、同じ大なる山也、川をへだて、兩山相むかへり、兩山の間を吉野河流る、古今集の歌に、流ては妹脊の山の中に落る吉野の河のよしや世中、とよめり、妹脊山は名所なり、古歌多し、大伴首が詩有、然るに古歌に、吉野によめる歌も、紀伊によめる歌もあり、故に顯昭が袖中抄、大名寄等には、妹脊山は紀州にありと見えたり、吉野川の下にありと云、然れ共紀州にあるは、川中にある島なり、脊山と云、妹山といふべき山、其あたりに見えす、日本紀孝德帝紀にも、紀伊、兄山せとかけり、是妹脊山にはあらず、古人名所の有るの國をとりちがへたる事おほし、吉野の妹脊山は、古今の歌によくかなへり、紀州の兄の山は、古今の歌にあはず、續後拾遺行家の歌に、ながれてもうき瀬なみせを吉野なるいもせの山の中河の水、とよみ侍れば、此所にある妹脊山を是とすべし、是より外には、吉野川の末紀伊の湊